

能登半島は東西文化の境界



清水直義教授 考古学的分析
能登半島は西からは海流の北上による漂着物のたまり場。東からは、海流を逆に進むための海上交通の障害だった。縄文時代には稚拙な丸木舟、弥生期には金属器で触先を作れるようにはなつたが、日本海は航行上、東西文化の境界だった。

大野荘湊が繁栄、利権争いも



東四柳史明教授 中世水運史
中世の湊は、河口から数百メートル遡った場所が盛った。加賀、能登には多数の湊があり、中でも大野湊は大野川、宮腰津（現金石港）は犀川河口を入ったところにあつて、ともに大野荘湊として物資の輸送で繁栄した。それだけに湊の支配、利権をめぐる争いも絶えなかった。

加賀・能登は環日本海の拠点

金沢学院大学美術文化学部文化財学科の公開講座は十月二十九日と十一月五日、北國新聞会館の金沢学院サテライト教室で開かれ、四教員が「日本海世界と加賀・能登」のテーマでリレー講義を行いました。受講者は考古学、中世の水運、古代の物流、近世の海運についての講義を聴き、環日本海交流の重要拠点としての加賀・能登の位置づけを学びました。講義の要旨は次の通りです。

トナカイ角は渤海ルート?



小嶋芳孝教授 古代期の物流
正倉院展で紹介されたトナカイの角は、古代の環日本海世界の物流を象徴するものである。島づたいに南下したオホーツク文化、七世紀に活発だった倭人の北上、大陸からの靺鞨（まっかつ）の渡来、遣唐使の動きなどを検討したが、角は渤海経由で日本に渡来した可能性が高い。

藩政窮乏の裏に海商の盛衰



見瀬和雄教授 近世の海運
近世の海運は、中世来の年貢や特産物輸送に加え、統一政権の形成に伴う木材の国家的需要、石高制による大名蔵米の市場への廻送などで規模が大きくなり、技術も格段に進んだ。加賀でも海商が活躍したが、藩政の窮乏で過大な御用金を課せられ、財産を没収された者もいた。

文化財学科公開講座 4教員がリレー講義

東高に優秀学校賞

「新聞を読んで」感想文コンクール
優秀賞に古谷さん、佳作に呉服さん

北國新聞社が小中高校生を対象に今年初めて実施した「新聞を読んで」感想文コンクールで、金沢学院東高校が優秀学校賞七校に選ばれました。また、同三年の古谷知美さんが最優秀賞に次ぐ優秀賞（三人）、一年の呉服一穂さんが佳作（五人）に選ばれました。十月二十九日に北國新聞会館で行われた表彰式には石田毅士郎校長と古谷さん、呉服さんが出席しました。石田校長が飛田秀一社長から表彰状と副賞を受け取りました。



飛田社長から表彰状を受ける石田校長、北國新聞会館



佳作を受賞した呉服さん（右）、優秀賞の古谷さん（中央）と石田校長

短大卒業生に北國芸能賞

今年の北國芸能賞に金沢女子短期大学（現金沢学院短期大学）卒業生の竹枝るん（本名・北川晴美）さんが金沢市東山一丁目在住の竹枝さんは、趣向を凝らした番組構成で、小唄の楽しさ、深い味わいを広く伝えた功績が評価されました。

中級者がHPづくり挑戦
金沢学院大学基礎教育機構の第七回土曜大学「中級者のためのパソコン利用技術」写真会は十月二十九日、2号館で行われました。受講者二十人が、ホームページ作成の知識、検索エンジンの使い方などを学んだ後、「私のお勧めのページ集」と名づけたホームページを作り、サーバーにアップロードしました。

開助教授の作品
米教材の表紙に
金沢学院大学美術文化学部の開光市助教授の洋画「想つ」がこのほど、米コンピア大出版発行の日本研究書「現代日本人の思想」の表紙「写真」に採用されました。

今春制作の6号で、帽子をかぶった男性が机にひじをつけ、物思いにふける様子を描いています。画商を通じてインターネットで紹介された作品をコンピア大が、現代的な和を感じる」と採用しました。

発行・広報室